

令和4年度普及活動外部評価 報告書

令和5年3月
長野県農政部農業技術課

県下10か所の農業農村支援センター（以下、「支援センター」という。）では、「しあわせ信州創造プラン2.0」及び「第3期長野県食と農業農村振興計画」に基づき、長野県農業と地域の発展を目指して、農業の生産性や収益性を向上させるための技術指導、担い手の確保、育成などの業務を行っています。これらの業務を効果的かつ効率的に展開するため、県では支援センターの活動について、外部からの幅広い視点で客観的な評価を行い、その結果を今後の活動に活かしています。

本年度は様々な分野で活躍される5名の外部有識者に依頼し、佐久、上伊那、北信の3支援センター及び農業技術課を対象に外部評価を実施しました。

今後、外部有識者から提言いただいたご意見等を、県下全ての支援センター及び農業技術課の今後の業務に反映させ、目標の達成に向けて活動の充実を図っていきます。

1 外部有識者

（五十音順・敬称略）

所属	役職	氏名
J A全農長野生産振興部	部長	岩崎 直樹
おうち料理研究家	—	王鷲 美穂
株式会社丸友中部青果	取締役	片山 環
白馬農場株式会社	代表取締役社長	津滝 明子
新潟食料農業大学	教授	吉岡 俊人

2 開催日時、評価対象等

支援センター等	実施日	説明事項・評価課題
佐久	10月18日	1 佐久地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「カーネーション産地維持のための担い手確保と生産性の向上対策」 3 特徴的な課題「佐久の特徴を活かした競争力の高い水田農業の推進」
上伊那	9月15日	1 上伊那地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「商品性向上と省力化による上伊那米生産の活性化」 3 特徴的な課題「りんご「シナノリップ」の高密度栽培における目傷処理及びビーエー液剤散布による側枝の確保育成」
北信	10月26日	1 北信地域の農業及び普及活動の概要 2 重点課題「需要に応じた多様な米の産地づくり」 3 特徴的な課題「北信州農業道場」～ 一丸となり取り組む担い手育成、自立支援 ～
農業技術課	10月18日	1 長野県農業の概要と普及組織の体制 2 普及活動の概要と普及職員の資質向上の取組

3 支援センター重点活動課題の総合評価

支援センター	課題名	総合評価※
佐久	カーネーションの産地維持のための担い手確保と生産性の向上対策	3.7
上伊那	商品性向上と省力化による上伊那米生産の活性化	4.0
北信	需要に応じた多様な米の産地づくり	4.0

※ 総合評価は、出席委員の平均値

[評価基準と判定区分]

- 5：目標以上の成果が認められる。
- 4：目標どおりの成果が認められる。
- 3：活動は十分に認められるが、成果はやや不十分。更なる活動展開を期待したい。
- 2：成果が認められないが、活動展開の糸口は見えている。
- 1：活動が不十分で成果が認められない。

4 外部有識者からの意見、提案等を踏まえた今後の対応

(1) 佐久農業農村支援センター

ア カーネーションの産地維持のための担い手確保と生産性の向上対策

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>「産地維持」という課題設定がＪＡ部会員の思いなのかそれとも他の要因なのか、産地の将来の方向性を見据えた説明があるとよかった。</p>	<p>生産者が年々減少していく中で、生産量を維持し産地の継続性を図ることはＪＡとの共通認識であり、その解決活動として、把握した全生産者の実態を基に新規および若手生産者の確保育成、生産性向上（労力確保・生産技術）を進めました。</p> <p>今後、重点活動の課題化にあたっては、問題の把握と関係機関や生産者の意向、データなどを客観的に整理し、産地の方向性を明確化した課題設定となるよう努めてまいります。</p>
<p>農業後継者の課題解決活動の成功事例が他の生産者にどのように周知され、活用されたのか等の説明がほしかった。</p>	<p>今回の活動で得られた仕立て方法の改善、湿害対策といった成果は、若手生産者の交流会等で共有しています。</p> <p>今後は、ＪＡ部会の研修会等において紹介するなど、産地全体への波及を心掛けた活動を行ってまいります。</p>
<p>労力補完の取組については、産地を維持するために、どの時期にどの程度の労力が必要かという目標（目安）を持つ必要があったのではないかと。全戸調査等の貴重な情報から、具体的な目標（目安）を導き出すステップがあるとさらによかった。</p>	<p>ご指摘のとおり、全戸調査の結果から産地維持のための具体的な目標の検討が必要でした。</p> <p>今後は調査結果を関係機関と共有・分析し、労働力補完システムの構築に向け支援を行ってまいります。</p>
<p>鮮やかな花色や日持ちの良さなどの品質を担保する科学的ロジックが栽培に生かされているかの説明がほしかった。例えば、温度や日照時間が花色に影響するメカニズムなどが分かれば、栽培技術の工夫が可能となり、ブランド力の向上につながるのではないかと。</p>	<p>産地の気象条件を正確に把握し、植物の生理生態と関連づけて分析することが課題の発見や解決につながることを改めて認識し、品質や収量のさらなる向上にむけて、試験場とも連携し、取り組んでまいります。</p>
<p>日持ちの向上にむけて、「出荷前の子房除去」を試みてはいかがか。カーネーションは満開後数日で子房から少量のエチレンが発生し、それが引き金となって商品性が低下する。満開前に子房を取り除くことで、チオ硫酸銀処理なしでも日持ちの延長が期待できるのでないか。手間のかかる作業ではあるが、他産地との差別化が可能になると思う。</p>	<p>カーネーションは蕾の状態で収穫するため、子房除去により花卉を傷め品質を低下させるリスクが大きいことと、多大な労力を要することから、現実的には難しいと考えます。</p> <p>また、現時点では価格と品質保持効果の面でチオ硫酸銀（ＳＴＳ）に代わる方法はなく、当面は本剤に頼らざるを得ない状況です。</p> <p>今後はＳＴＳの代替技術の必要性を認識し、日持ち向上に関する情報収集に努め、試験場とも連携し、検討してまいります。</p>

<p>アザミウマ類の防除については、天敵のバンカーとなる花き植栽を推奨すると、観光面や環境面でもプラスになるのではないかと。部局横断的な取組に期待したい。</p>	<p>バンカー植物の取り組みは、難防除病害虫に対するIPMの観点から、有効な技術であるとともに、観光や環境など副次的な効果が期待できるとのご提案として承ります。 地域課題の解決に向け、他部局や関係機関と連携する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>資材高騰等により、農家負担が増える中、これからは産地維持に向け、JA等との連携を密にし、農業者に寄り添った普及活動を望む。</p>	<p>資材高騰の問題に対する農家負担軽減及び所得確保は喫緊の課題と認識しています。 今後もJA等と連携を密にし、対応技術の積極的な検討と導入及び有効な施策を効果的に活用した普及活動を展開し、生産者のリスク軽減や経営の維持に努めてまいります。</p>
<p>重点活動課題については、3年間のロードマップと最終的な成果目標を明示することが必要だが、今回、不明確な点があったため、次年度以降の重点活動課題の設定の際には留意してほしい。</p>	<p>今後、重点活動課題の設定にあたっては、関係機関等と十分な合意ができるよう努め、到達点としての成果目標と、過程としてのロードマップや役割分担を明確化した計画となるよう留意してまいります。</p>

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>水田でアメリカセンダングサの発生が目についた。他県ではあまり見られないため、地域の特徴に応じた雑草管理手段の検討が望まれる。今後も農業者と向き合い指導されることを望む。</p>	<p>アメリカセンダングサは、基本的な防除により発生を抑制できており、水田別の発生の多少は、生産者間の防除意識により大きく異なるものと認識しています。</p> <p>引き続き、生産者個々の防除意識の向上及び防除の励行に向けて、きめ細やかな啓発及び指導に努めてまいります。</p>
<p>佐久平に入ってセイダカアワダチソウが少ないことに気が付いた。セイダカアワダチソウのない農地環境の実現は、おそらく全国初の取組であり、観光面でも大きなアピールになると思う。農政、観光、建設、環境等の部門横断的な取組として、プロジェクト化を検討されてはどうか。</p>	<p>農村の景観は、当地域にとって貴重な観光資源の一つとして認識しております。</p> <p>いただきましたご意見は、新しい地域振興策のヒントとして承ります。</p>

(2) 上伊那農業農村支援センター

ア 商品性向上と省力化による上伊那米生産の活性化

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
現地調査先（農）田原と支援センターとの良好な関係が伺えた。（農）田原をモデルとして、多くの農業者へスマート農業の導入が進むよう、補助金制度も活用した継続支援をお願いしたい。	農業農村振興課（補助金制度所管）と連携を図りながら、有効な補助事業や今回の重点活動を通して得られた成果などを周知し、より多くの農業者へスマート農業技術の導入が進むよう、今後とも取り組んでまいります。
「風さやか」の販売について、食味特性（冷めてもおいしい等）を活かして、さらに需要が伸びる取組を進めてほしい。	「風さやか」のブランド確立、消費拡大に向け、推進母体として行政・生産者団体・流通業者・販売者等の参画により設立された「風さやか」推進協議会（事務局：県農業技術課）と連携し、「風さやか」の食味特性を含めた認知度向上と利用拡大を進めてまいります。 また、高品質を保ちつつ、安定して生産できるよう、JA等関係機関と連携し、栽培技術指導を引き続き行ってまいります。
特別栽培米は消費者の関心が高いため、生産量を増やし、ターゲットを絞った販売に結びつけてほしい。	特別栽培米を生産するグループ等への継続支援を行うとともに、新たに特別栽培米の生産を志向する農業者に対して、きめ細かな技術・経営指導を行い、持続的で付加価値の高い米生産を今後とも進めてまいります。
課題の選定・事業内容・成果の検証が的確に行われていた。地域の主力品目である水稻の商品性向上と省力化に向け、今後の事業継続と成果に期待したい。	管内の基幹品目である水稻については、今後も需要動向に即して、品質・収量ともに満たせる産地を目指します。 また、JA等関係機関と連携し、集落営農組織を中心とした担い手に対して、スマート農業技術等省力化に向けた新たな技術の導入支援に、引き続き取り組んでまいります。

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>「シナノリップ」の課題は、興味深い取組で調査研究の成果が地域の農業者とも共有されていた。「伊那と言ったらシナノリップ」となるよう、今後の取組に期待したい。</p>	<p>管内で栽培面積が増えている「シナノリップ」について、今回、課題として取り組んだ側枝の確保育成のほか、日焼け果や鳥害などの課題についても解決できるよう、今後も関係機関と連携し、安定生産と品質向上に取り組んでまいります。</p>
<p>一般活動課題の中の地消地産の推進について、「HP等での情報発信を行った」とあるが、その効果や反応はどうだったのかを教えてください。今後も食育活動や情報発信を通じて、地消地産がさらに進むことを期待する。</p>	<p>管内の特色ある農産物情報や伝統野菜の紹介、イベント情報などを当センターホームページで発信しています。</p> <p>コロナ禍ではありますが、記事を見た方から数件のお問い合わせがあり、県民の方々に知っていただく機会となっています。</p> <p>今後も地産地消がさらに進むように、関係機関と連携して情報発信に取り組んでまいります。</p>
<p>今回の2課題の成果等を、系統外の農業者とも共有し、省力化や品質向上に結び付くよう継続的なサポートをお願いしたい。</p>	<p>今回の2課題を含む普及活動の成果につきましては、毎年度、普及活動実績集としてとりまとめ、当センターホームページで公開しています。また、研修会など様々な機会を捉え、直接、農業者の方々への指導・支援に活用しているところです。</p> <p>今後も効果的な情報発信に努めるとともに、農業者個々の課題・要望等に対しては、これまでの活動成果に加え、他地域の情報や試験研究成果等も活用したサポートを行ってまいります。</p>

(3) 北信農業農村支援センター
ア 需要に応じた多様な米の産地づくり

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>現地調査で、農業の担い手不足を痛感した。地域の農地を守る法人経営体への継続支援を望むとともに、新規就農者を育成する北信州農業道場と関連づけた取組を検討されてはいかがか。</p>	<p>大規模な農業法人や集落営農組織などは、地域の農地を守る重要な担い手であり、今後も農業経営サポート事業等の活用による税理士や社会保険労務士の指導も合わせ、継続的な支援を行ってまいります。</p> <p>また、北信州農業道場の講座で、こうした法人経営体への視察や事例紹介などを行い、地域農業を支える担い手の役割等を伝え、情報交換を行う場づくりを進めてまいります。</p>
<p>成果目標として、導入面積や生産者数を設定していることは、全体評価としてふさわしい。一方で収量や農家所得、労働生産性を評価する指標も必要ではないか。</p>	<p>今回は「コシヒカリ」への偏重を解消するため、業務用米等の導入面積と生産者数を成果目標として設定しました。</p> <p>ご指摘いただいた成果指標につきましては、今後策定する普及活動基本計画や令和5年度普及活動計画検討の際に、参考とさせていただきます。</p>
<p>「風さやか」の消費者へのPR活動をさらに進めると同時に、学校給食やイベント等での利用を積極的に働きかけてほしい。</p>	<p>「風さやか」のブランド確立、消費拡大に向け、推進母体として行政・生産者団体・流通業者・販売者等の参画により設立された「風さやか」推進協議会（事務局：県農業技術課）と連携し、今後も積極的に消費や利用の拡大を進めてまいります。</p>
<p>酒かすの肥料試験については、試験結果を検証し、見える化（数値化）して地域の農業者と共有するとともに、地域循環モデルとして消費者への情報発信につなげてほしい。</p>	<p>酒かすの施用試験については、効果の確認はできたものの、供給量や散布方法などの課題があり、現時点で広く利用を呼び掛けることは難しい状況です。</p> <p>今後、検証を重ね、技術が確立しましたら、地域循環モデルとして広く情報発信を行ってまいります。</p>

イ 支援センター総括所見等

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>北信州農業道場は、支援センターと関係機関が連携したすばらしい取組である。地域農業の発展にはリーダーとなる生産者がいる事が重要である。今後の更なる展開に期待する。</p>	<p>今後も農業経営士や農業関係団体等との連携を図るとともに、受講生のアンケート結果や他地域の取組などを参考に、講座内容や受講対象者などを検討し、地域リーダーとなる人材の育成に努めてまいります。</p>
<p>県下トップであった北信地域のアスパラガスの生産量が大幅に減少している。JAとも連携し、再構築を目指してほしい。</p>	<p>アスパラガス産地の再構築のためには、新たな技術導入と担い手の確保・育成が課題と認識しています。</p> <p>今後はJA等関係機関との連携を強化し、安定した生産が期待される枠板式高畝栽培や自動かん水システムなどの新たな技術の実証展示を継続するとともに、北信州農業道場等を通じた担い手の確保・育成に注力してまいります。</p>

(4) 農業技術課

ア 組織体制や人員動向、資質向上の取組

外部有識者評価（意見、提案等含む）	今後の対応
<p>中間層の少ない普及職員の年齢構成を、今後どのように改善・カバーしていくのかの検討が必要ではないか。</p>	<p>県では「長野県普及指導員人材育成計画」に基づき、発展段階に応じた研修等を実施し、特に普及経験10年未満の若手職員の育成に注力しているところでは。</p> <p>また、再任用職員の十分な活用を図り、農業者への指導支援に加え、普及職員への技術・経営指導も重要な業務として位置付けています。</p> <p>今後も継続的な普及事業が展開できるよう、普及職員の備えるべき資質の継承・向上に努めてまいります。</p>
<p>20年後には現実となっているであろう自動化農業や持続型農業を社会実装するための、広範な知識や技術を持つ人材をどう確保・育成していくのかなど具体的な将来設計の提示があるとよかった。</p>	<p>県では令和2年度から、高度な知識・技術をもつ広域担当普及指導員を配置し、スマート農業技術の導入推進や高度な経営課題解決のための支援を行っています。</p> <p>また、環境にやさしい農業の面的拡大が図られるよう、国をはじめとする関係機関などが行う研修会等への職員派遣を行い、先進的な知識や技術の習得をすすめているところでは。</p> <p>これからも中・長期的な視点から普及事業の遂行に必要な人材を確保し、「長野県普及指導員人材育成計画」への位置づけを強化するなど、資質の向上に努めてまいります。</p>
<p>植物防疫法の一部を改正する法律が令和4年5月に制定され、輸出入検疫及び国内防疫に関する対象生物に草（雑草）が明記された。今後も国の動向に留意され、雑草管理の先進県である貴県において、優位性を活かした農業が展開されることを期待する。</p>	<p>県では平成19年に「長野県雑草イネ対策チーム」を設置し、防除対策マニュアルを整備するなど、関係機関と一丸となって、取り組んでいるところでは。近年では、農業農村支援センターが信州大学と連携し、情報端末アプリを活用した調査を行うなど、新たな取組が展開されています。</p> <p>今後も国の動向を注視し、予防・判断・防除を組み合わせた総合防除の取組を推進してまいります。</p>

5 その他の主な意見

(1) 佐久農業農村支援センター

- ・水田農業の推進は雑草イネという難しい防除に対し、対策を立て関係機関が一体となって課題解決に取り組んだすばらしい活動である。
- ・水稲・野菜・果樹等品目が多岐にわたる中で、それぞれの課題を把握し、指導・支援が行われていた。これからも農業者と向き合った活動に期待したい。

(2) 上伊那農業農村支援センター

- ・スマート農業がこんなに進んでいるとは思わず、非常に驚いた。今後、波及効果が期待される。
- ・農業者との信頼関係が築かれ、JA等関係機関との連携がとれている。
- ・改めて、支援センターの業務が多岐にわたっていることを実感した。農業技術や経営支援など、農業者に寄り添った活動を今後も期待している。

(3) 北信農業農村支援センター

- ・JAや業界団体、実需者を巻き込み、生・販一体となった取組が行われていた。
- ・新規就農者等の育成について、個別に聞き取り調査を行い、状況に応じた指導を行っている点や技術内容を動画で配信している点が特に評価できる。
- ・広い管内を少数精鋭で活動されており、感心するとともに、若い職員の方々の活躍も知ることができた。今後益々の活躍に期待したい。

(4) 農業技術課

- ・「普及指導員人材育成計画」に基づき、経験年数に応じた研修計画が組まれていた。
- ・職場での年齢のギャップはどここの会社でもあることであり、悩みでもある。従来からの普及活動とは違った指導員の形を各職場で作ってほしい。
- ・これからも普及指導員という仕事に誇りを持ち、「人」として農業者とのつながりを大切にして業務を進めてほしい。